



一般財団法人ロングステイ財団 <http://www.longstay.or.jp>
〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-12-1 虎ノ門第一法規ビル7階
Tel: (03)3591-8144 Fax: (03)3591-8166
E-mail: info@longstay.or.jp

長期滞在型観光・ロングステイ学会
会員の皆様へ

2016年12月12日

ロングステイ（長期滞在型余暇）に関する調査報告書
ロングステイ調査統計 2016
学会員特別割引販売のご案内

一般財団法人ロングステイ財団（事務局：東京都港区、会長 船山龍二）は「ロングステイ調査統計 2016」の販売を開始しました。本調査統計は、2015年（4月～12月までの9ヶ月にわたり）当財団が主催、後援、出展したセミナー、イベント等で回収した記述式アンケート調査結果と不特定多数に向けたインターネット調査結果、および諸機関の統計資料を分析し、ロングステイ（長期滞在型余暇）の動向やトレンド、今後の予測・提言について纏めたものです。本号では、国内ロングステイに関する情報を拡充したほか、インバウンドロングステイに関する項目を加え、一層深くロングステイを取り巻く環境、市場動向、回答者の志向についてクロス集計した分析を報告しています。今回は発刊後、初めて本調査に使用したアンケートデータを丸ごとリンクからダウンロードできるようにいたしました。ロングステイ市場、ロングステイ長期滞在観光の政策や事業に関わる方、研究されている先生や学生の皆様に幅広くご活用いただける統計資料となっています。ぜひ、この機会にお求めください。

～主なトピック～

- 海外ロングステイ推計人口は 157 万人！
※海外旅行者数は3年連続減少の中、ロングステイ推計人口は増加の傾向
※ロングステイの目的の多様化が進む～19歳以下、40代、50代、65～69歳の層で増加～
- 国内ロングステイの推進、キーワードは滞在施設の拡充！
※リピーター獲得にはロングステイ
～ロングステイへの関心は38.7%、ロングステイ経験者では55.8%に～
※国内ロングステイの阻害要因は滞在施設に関するものが上位3つを占める

「ロングステイ調査統計 2016」

- | | |
|-----------|---|
| ■発行・編集・販売 | 一般財団法人ロングステイ財団 |
| ■定価 | 【紙版】本体7,000円＋税 → 4,000円（税込・送料込） |
| ■購入方法 | （一財）ロングステイ財団まで添付の申込書をご記入の上、メールまたはfaxにてお申込み願います。 |

≪引用・転載時のクレジット表記のお願い≫

転載時には必ず「ロングステイ調査統計 2016」とクレジットを明記いただきますようお願い申し上げます。

お申込み先 メール info@longstay.or.jp fax03-3591-8166,
一般財団法人ロングステイ財団 03-3591-8144（平日 9:30～12:00、13:00～17:00） 担当 森田・小村・佐藤
<http://www.longstay.or.jp>

【調査概要】

一般財団法人ロングステイ財団では、下記の2つのアンケートを用いて調査を実施しています。

調査名 : ロングステイに関するアンケート
 調査対象 : ロングステイ財団が主催・後援・出展したロングステイセミナーやイベント参加者
 調査方法 : 記述式アンケート調査
 調査項目 : (1) 海外ロングステイについて
 (2) 国内ロングステイについて
 調査期間 : 2015年4月1日～12月31日
 回答者属性 :

年齢	男性									女性									合計
	～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳～	無回答	～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳～	無回答	
標本数(人)	43	45	156	298	225	189	72	48	13	120	87	175	245	101	88	24	13	59	2054
構成比(%)	4.0	4.2	14.8	27.8	21.0	15.8	6.7	4.5	1.2	18.8	7.7	20.1	28.1	11.6	7.8	2.8	1.5	6.8	100

地域	北海道	東北	信越	関東	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州・沖縄	海外	無回答	全体
標本数(人)	125	12	19	1493	4	198	70	6	2	7	8	112	2054
構成比(%)	6.1	0.6	0.9	72.7	0.2	9.6	3.4	0.3	0.1	0.3	0.3	5.5	100

本文では、「I.-3.-2『海外ロングステイ』」で使用

調査名 : 今後の余暇の過ごし方についてのアンケート
 調査対象 : 全国20歳以上の男女
 調査方法 : インターネット調査
 調査項目 : (1) 海外ロングステイについて
 (2) 国内ロングステイについて
 (3) その他
 調査期間 : 2016年2月25日～26日
 回答者属性 :

年齢	男性								女性								合計
	～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳～	～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳～	
標本数(人)	31	84	188	249	95	116	37	36	121	178	224	183	88	47	10	5	1648
構成比(%)	3.7	10.0	22.5	29.8	11.4	13.9	4.4	4.3	14.8	21.7	27.8	20.1	8.1	5.8	1.2	0.8	100

地域	北海道	東北地方	関東地方	中部地方	近畿地方	中国地方	四国地方	九州地方	全体
標本数(人)	92	105	618	266	324	74	33	136	1648
構成比(%)	5.6	6.4	37.5	16.1	19.7	4.5	2.0	8.3	100

本文では、「I.-3.-1『国内ロングステイ』、I.-3.-2『海外ロングステイ』」で使用

ロングステイの定義

海外においては、生活の源泉を日本に置きながら海外の1ヵ所に比較的長く滞在し(2週間以上)、その国の文化や生活に触れ、現地社会での貢献を通じて国際親善に寄与する海外滞在型余暇を総称したもの。

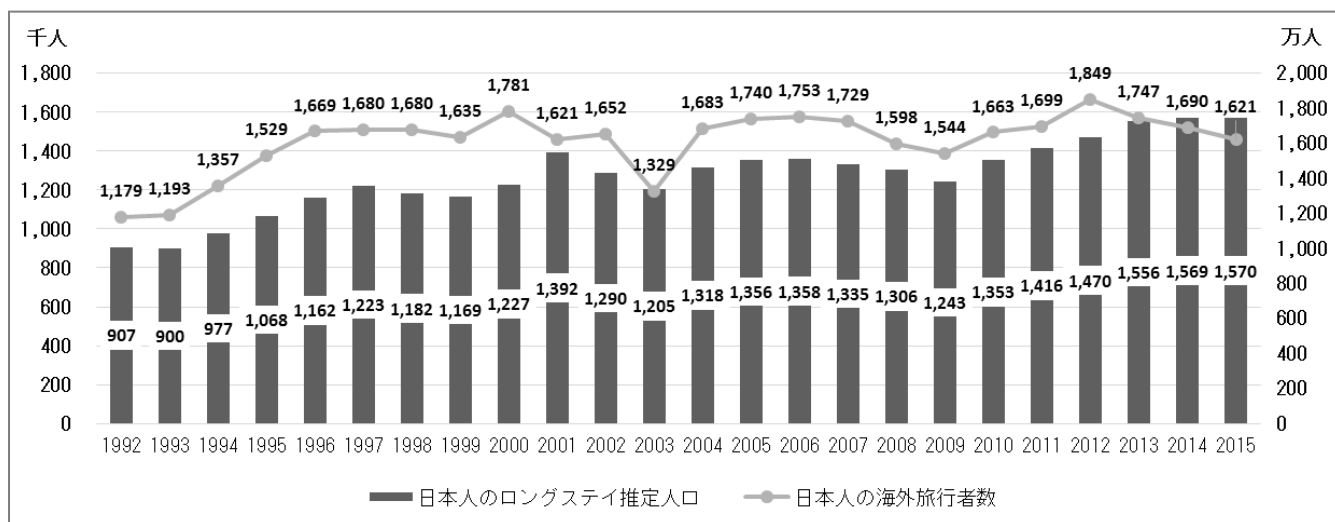
国内においては、主たる生活の拠点のほかに、日本国内の他の地域にて比較的長く(1週間以上)あるいは繰り返し滞在し、その滞在地域のルールを遵守しつつ地域文化とのふれあいや住民との交流を深めながら滞在するライフスタイルをいう。

TIPICS① 海外ロングステイ推計人口は 157 万人！

海外は2週間以上の期間をロングステイと定義しているが、法務省の「滞在期間別 帰国日本人の年齢及び男女別数値」をもとに推定した海外ロングステイ推定人口（市場規模）の統計数値の数は着実に拡大しており、2015年は157万632人と微増となった。これらの状況から、ロングステイ市場は為替リスクや地政学リスクの影響を受けにくいと考えられる。一方、2015年の海外旅行者数は1621万人となり前年と比較して4.1%の減少となった。日本人のロングステイ推定人口は、海外旅行者数と連動するような形で推移してきたが、海外旅行者数のピークを迎えた2012年を機に海外旅行者数は減少しているのに対し、ロングステイ推定人口は増加傾向になっている。このことから、ロングステイ市場は、海外旅行市場とは異なり、比較的為替リスク、地政学リスクにも強いと言われる市場ではあったものの、その傾向はさらに高まり、安定したマーケットであるということが言えるだろう。（図1）

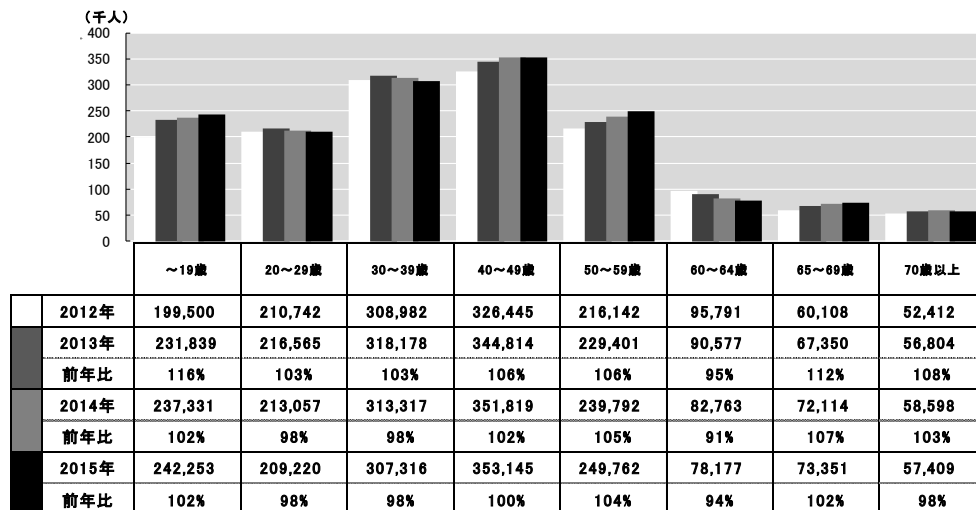
2012年以降のロングステイ推定人口を年代別で見ると、19歳以下、40代、50代、65～69歳の層で増加傾向が見られた。現役世代でもある40代、50代の伸びは、ワーク・ライフ・バランスの重要性が指摘されている中、ライフスタイルとしてロングステイが徐々に認知され、共感されたという裏づけになっているのではないかと推測できる。また、65～69歳の伸びについては、60歳以降の雇用延長が進んだことにより、65歳以降になってからロングステイを開始するという傾向があるためと考えられる。さらに、注目したいのが、19歳以下の推移である。海外旅行離れが進んでいると言われていた若年層だが、グローバル化の中で国際感覚の養成や、キャリアアップの手段としてロングステイが選択されていることが考えられる。今後もこの傾向は強くなることが予想され、この市場は潜在性があると言える。（図2）

図1 日本人のロングステイ推定人口と海外旅行者数の推移の推移



出典：法務省「入出国管理統計」をもとにロングステイ財団が作成

図2 2012年～2015年のロングステイ推定人口の推移（年代別）



TIPICS② 国内ロングステイの推進、重要なキーワードは滞在施設

「インターネット調査」で、国内に1週間以上の滞在型旅行の経験値を尋ねたところ、「経験がある」と回答した人は22.2%と、5人に1人が国内長期滞在を経験している結果になった。海外の長期滞在経験数値は27.6%であることから、この数値は決して低い割合ではない。22.2%の回答者を世代別・男女別を見ると、男性は20代と60代以上の両極が高く、女性は若い世代は低く、50代以上が高いという結果になった。

また、関心度の設問では全体で38.7%が「関心がある」と回答したのに対し、国内1週間以上のロングステイ経験者に絞ったところ、関心度は55.8%に上昇する。つまり、ロングステイ経験者はリピーターになる可能性が高いということがわかる。(図3)

国内ロングステイに関する阻害要因を尋ねたところ、上位3つの回答が全て滞在施設に関するものとなった。(図4) さらに、「国内ロングステイ滞在施設に必要な条件」について尋ねたところ、「週単位・月単位の料金体系が欲しい」が60.4%と極めて高い結果であった。日本国内の宿泊・滞在料金体系は、1泊、2泊単位、一人当たり単位が基本で発達してきたため、長期型料金体系がないことが多い。この点が長期滞在型旅行、ロングステイ普及の障害にもなっているようだ。また、主に旅館や民宿の食事・宿泊一体型が主流であったため、部屋単位の料金体系がないこともロングステイでは使い勝手が悪く、割高になり、普及拡大の障害となっている。つまり、既存の滞在施設も料金形態、泊食分離を進めることで、国内ロングステイ市場の取り込みが可能で、国内ロングステイを推進することでリピーターを増やすことが可能だと考えられる。(図5)

図3 経験別の国内ロングステイへの関心

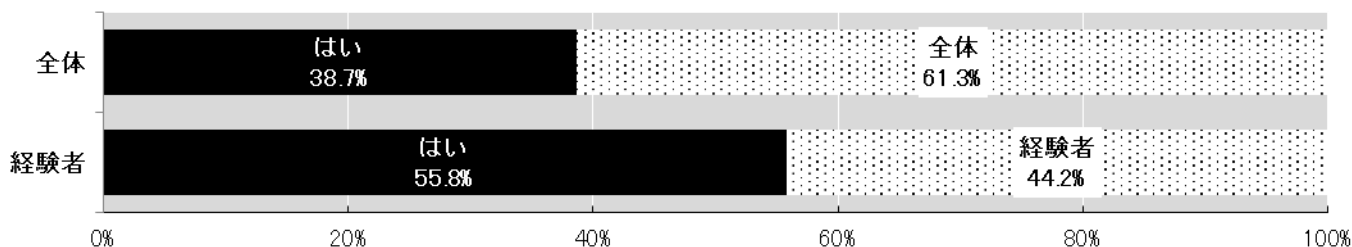


図4 国内ロングステイの阻害要因

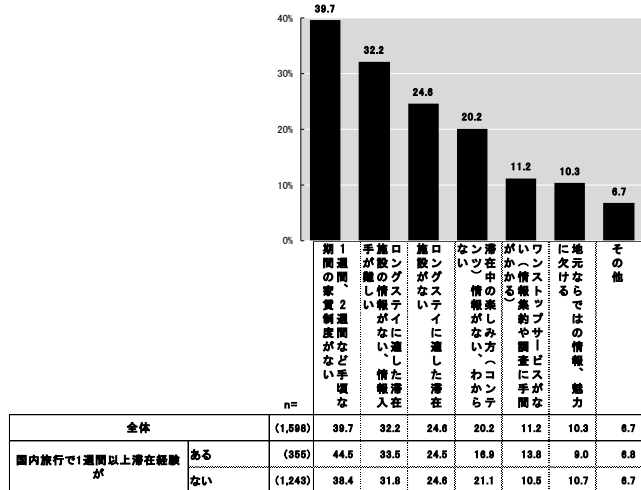
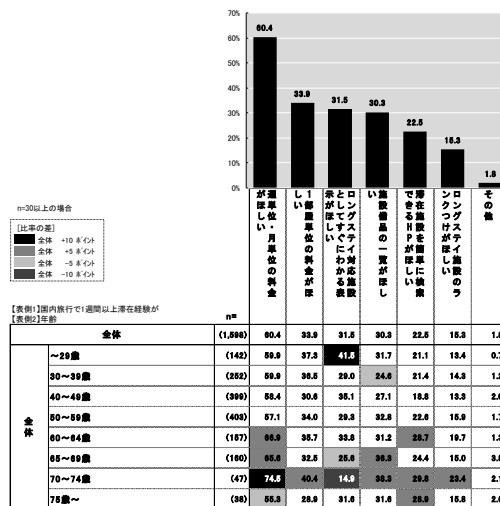


図5 国内ロングステイ滞在施設に必要な条件



お申込み書 学会員用

送信先：(一財) ロングステイ財団

【メール】 info@longstay.or.jp / 【FAX】 03-3591-8166

() 冊、申し込みます

貴校名	
冊数	
お名前	
送付先住所	〒
電話番号	() ー
携帯番号	() ー
メールアドレス	
請求書 および 領収書	請求書が必要 <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ 領収書が必要 <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ 宛名 宛先住所 (送付先と異なる場合) 〒

お申込み書送信後、下記の口座に代金¥4,000円(税込・送料込)をお振込みください。

当財団にて、お申込み書受領・ご入金確認後、統計本を発送いたします。
振込手数料はお客様ご負担でお願いします。

《振込口座》

銀行振込の場合 みずほ銀行 神谷町支店 普通 2412947 (財) ロングステイ財団

郵便振替の場合 00130-6-32298 (財) ロングステイ財団

お問い合わせ先：一般財団法人ロングステイ財団(担当：森田、小村、佐藤)

TEL：03-3591-8144

Email：info@longstay.or.jp